

日病薬発第30-159号

平成30年10月29日

都道府県病院薬剤師会 会長 殿

一般社団法人 日本病院薬剤師会

会 長 木 平 健 治

薬剤業務委員会

委 員 長 室 井 延 之



入退院支援に関する事例収集について（お願い）

平素より日本病院薬剤師会の活動にご高配を賜り御礼申し上げます。

近年、医療機能の分化及び地域包括ケアシステムの推進により、高度急性期病院、急性期病院、回復期病院、慢性期病院や在宅等において、安心して安全な薬物療法を継続的に実施することが求められており、病院間や薬局、介護施設との連携や情報提供が極めて重要であります。しかしながら、現状ではそれらの中での薬物療法に関する連携や情報共有は大きく進んでおりません。

上記の事を踏まえ、薬剤業務委員会では、シームレスな医療連携に必要な薬剤師業務について検討するために、入院・外来医療と在宅医療とを繋ぐ薬剤師の入退院支援業務の事例を収集したいと考えております。

つきましては、貴下会員施設における薬剤師の入退院支援業務の事例について、別紙の様式を利用し、平成31年2月28日（木）までに、貴会で取り纏めの上、本会事務局総務課（somu@jshp.or.jp）宛に、件名を「入退院支援に関する事例」として、メール添付でお送り下さいますようお願い申し上げます。

本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

<問い合わせ先>

一般社団法人 日本病院薬剤師会

事務局総務課 （担当：稲富、加藤）

TEL：03-3406-0485

E-mail：somu@jshp.or.jp

入退院支援の事例記載様式

都道府県	
施設名	
薬剤部門責任者	
記入者	
連絡先	
入退院支援項目	
実施する目的	
薬剤師の役割	
診療報酬上の評価	
業務内容 実施プロセス	
入退院支援ツール	
具体的な成果・効果	
成果等を発表した学会および成果等と関連した学会発表	
成果等を報告した論文・雑誌および成果等と関連した論文・雑誌	

入退院支援の事例記載様式

都道府県	岡山県
施設名	岡山大学病院薬剤部
薬剤部門責任者	千堂 年昭
記入者	猪田 宏美
連絡先	E-mail: okaza-h@okayama-u.ac.jp TEL: 086-235-7510
入退院支援項目	<input checked="" type="checkbox"/> 入院支援 <input type="checkbox"/> 退院支援 <input type="checkbox"/> 入・退院支援
実施する目的	入院・退院支援の質の向上および外来・病棟業務の効率化
薬剤師の役割	入院予約をした外来受診日に、薬剤師と看護師が協働し、患者の情報収集および入院説明を行っている。その中で、薬剤師は、使用中の薬剤について情報収集を行う。
診療報酬上の評価	<input type="checkbox"/> 入退院時支援加算 <input type="checkbox"/> 多機関共同指導加算 <input type="checkbox"/> 退院時共同指導 1 <input type="checkbox"/> 退院時共同指導 2 <input type="checkbox"/> その他 () ..なし
業務内容 実施プロセス	<p><u>業務内容ならびに業務フローチャートを記載してください</u> <u>(対象患者・実施場所・業務内容・多職種等の連携等)</u></p> <p>対象患者：消化器内科、糖尿病内分泌内科・腎臓内科・リウマチ膠原病内科、循環器内科へ入院予定の患者 実施場所：外来診療棟入院支援室（薬剤師と看護師が常駐） 業務内容：</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>看護師</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院のしおり説明 2) 患者基本情報収集 3) 入院前スクリーニングシート各種入力 <ol style="list-style-type: none"> ① 退院計画リスクスクリーニングシート ② 転倒転落アセスメントシート </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> 4) アレルギー歴の確認 5) 使用中の薬剤を確認 薬剤師 </div> <p>業務フローと他部門との連携：</p>

	<pre> graph TD A[外来受診] --> B[予定入院決定] B --> C[外来クリニック] B --> D[入院支援室] C --> E["・入院に関する同意書類 ・患者用クリニカルパスの説明 (必要時のみ) ・検査案内 ・入院支援室案内 (ナビゲーションカードに記入)"] D -- 電話連絡 --> F["・薬剤師による面談 ・看護師による情報収集と説明"] D -- "入院が決定した当日対応" --> F F --> G[入院当日] G --> H["・入院前の情報を元に情報整理や 看護計画立案など"] G --> I["・持参薬を確認 ・休薬指示あれば確認"] J[管理栄養士] -- "栄養に関する質問" --> K[総合患者支援センター] L[病棟看護師] -- "入院費や生活・福祉の相談" --> K M[病棟看護師] --> H N[病棟薬剤師] --> I </pre>
入退院支援ツール	なし
具体的な成果・効果	<p><u>患者数、算定件数などのプロセス評価や業務の効率化、患者満足度の変化など成果・効果を記載してください</u></p> <p>・外来で薬剤師による面談を行うことの効果</p> <p>＜病棟業務への影響＞</p> <p>・入院前に薬物治療に関する問題点をあらかじめ抽出しておくことで、入院してから病棟薬剤師が薬物治療への介入をスムーズに開始できるようになった。得られた情報は、薬剤管理指導記録に準じた形でカルテに記載をしている。</p> <p>＜休薬が必要な薬剤の確認＞</p> <p>薬剤師は、得られた処方情報を薬学的な観点から評価し、入院および治療に向けて、休薬が必要な薬を確認している。入院後では、休薬期間が不十分になる場合も多く外来時点で確認ができることが利点である。</p> <p>＜アレルギー歴の情報収集＞</p> <p>アレルギー歴については詳細を聞き取り、外来の時点で電子カルテへ登録をすることで医師による処方オーダーをシステム上で不可能にすることができる。</p> <p>＜看護師との協働＞</p> <p>看護師は、転倒転落アセスメントシートを記入している。アセスメン</p>

	<p>トシートには、薬剤に関する項目があり、薬剤師はアセスメントシート作成の補助を薬剤師が行っている。</p> <p>・入院支援室対応患者とプレアボイド報告件数</p> <table><tr><th>年度</th><th>入院支援室対応患者 件(月平均)</th><th>プレアボイド報告 件</th></tr><tr><td>2015</td><td>113 (12 月のみ)</td><td>1</td></tr><tr><td>2016</td><td>1, 718 (143. 2)</td><td>17</td></tr><tr><td>2017</td><td>2, 321 (193. 4)</td><td>37</td></tr></table>	年度	入院支援室対応患者 件(月平均)	プレアボイド報告 件	2015	113 (12 月のみ)	1	2016	1, 718 (143. 2)	17	2017	2, 321 (193. 4)	37
年度	入院支援室対応患者 件(月平均)	プレアボイド報告 件											
2015	113 (12 月のみ)	1											
2016	1, 718 (143. 2)	17											
2017	2, 321 (193. 4)	37											
成果等を発表した学会および成果等と関連した学会発表	<p><u>発表演題名、学会名、発表年度を記載してください</u></p> <p>岡山大学病院における入院支援室の現状と課題, 日本医療マネジメント学会 第19回 岡山県支部学術大会 (2017)</p>												
成果等を報告した論文・雑誌および成果等と関連した論文・雑誌	なし												